

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	エンケイ株式会社都田工場 工場E棟	階数	地上1F
建設地	静岡県浜松市北区都田町11128 他	構造	S造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	25 人
地域区分	6地域	年間使用時間	6,000 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年6月 予定	評価の実施日	2023年3月11日
敷地面積	20,039 m ²	作成者	鈴木久米男
建築面積	2,707 m ²	確認日	2023年3月10日
延床面積	2,634 m ²	確認者	鈴木久米男



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.6

Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.6

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.8

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.4

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
・これはCASBEE静岡(2016年版)による評価結果です。	・特になし。	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
・仕上材等の建材は、F☆☆☆☆を使用している。	・事務室の天井高は2.87mである。 ・休憩室の面積は工場と事務室等の1.07%である。 ・各仕上材は防汚性の高い材料を使用している。	・景観条例に準じている。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
・省エネ適合判定BEImは0.56である。	・節水型便器を採用している。 ・断熱材はグラスウール、スタイロフォームを採用している。	・駐車場、トラック待機場を適正に計画している。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE®-建築(新築) 2021年SDGs対応版

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	エンケイ株式会社都田工場 工場E棟	階数	地上1F
建設地	静岡県浜松市北区都田町11128 他	構造	S造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	25 人
地域区分	6地域	年間使用時間	6,000 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年6月 予定	評価の実施日	2023年3月11日
敷地面積	20,039 m ²	作成者	鈴木久米男
建築面積	2,707 m ²	確認日	2023年3月10日
延床面積	2,634 m ²	確認者	鈴木久米男



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆ 100%超: ☆

①参照値 100%
②建築物の取組み 81%
③上記+②以外の 81%
④上記+ 81%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 建築環境SDGsチェックリスト評価結果

3(保健)	1.9
4(教育)	1.8
5(ジェンダー)	1.5
6(水・衛生)	1.9
7(エネルギー)	1.8
8(経済・雇用)	1.7
9(イノベーション)	1.6
11(都市)	1.7
12(生産・消費)	2.0
13(気候変動)	1.8
15(陸上資源)	1.3
17(実施手段)	2.1

* SDG1,2,10,14,16は他のゴールに集約されています

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.6

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.8

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.4

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
・これはCASBEE静岡(2016年版)による評価結果です。	・特になし。	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
・仕上材等の建材は、F☆☆☆☆を使用している。	・事務室の天井高は2.87mである。 ・休憩室の面積は工場と事務室等の1.07%である。 ・各仕上材は防汚性の高い材料を使用している。	・景観条例に準じている。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
・省エネ適合判定BEImは0.56である。	・節水型便器を採用している。 ・断熱材はグラスウール、スタイロフォームを採用している。	・駐車場、トラック待機場を適正に計画している。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要				
建物名称	エンケイ株式会社都田工場 工場E棟	BEE	1	BEEランク B+ ★★★

2. 重点項目への取組み度				
重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.8 /5		ふつう	
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.4 /5		がんばろう	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	1.6 /5		がんばろう	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.8 /5		がんばろう	
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上
			がんばろう 3 点未満	

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目	
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。			
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)		得点	3.8
<ul style="list-style-type: none"> ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) 	Q-1 2 2.1 2.2	① 外皮性能	
	Q-1 3 3.1 3.13	② 昼光利用設備	
	Q-2 2 2.2 2.2.1	③ 昼光制御	
	2.2.2 ④	④ 躯体材料の耐用年数	
	2.2.3 ④	④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔	
2.2.4 ④	④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		
2.2.5 ④	④ 空調換気ダクトの更新必要間隔		
2.2.6 ④	④ 空調・給排水配管の更新必要間隔		
2.2.6 ④	④ 主要設備機器の更新必要間隔		
Q-3 1	⑤ 生物環境の保全と創出		
3 3.2	⑥ 敷地内温熱環境の向上		
LR-1 1	⑦ 建物外皮の熱負荷抑制		
2	⑧ 自然エネルギー利用		
3	⑨ 設備システムの高効率化		
4 4.1	⑩ モニタリング		
4.2	⑩ 運用管理体制		
LR-2 1 1.1	⑪ 節水		
1.2 1.2.1	⑪ 雨水利用システム導入の有無		
1.2.2 ⑪	⑪ 雑排水等利用システム導入の有無		
2 2.1	⑫ 材料使用量の削減		
2.2	⑫ 既存建築躯体等の継続使用		
2.3	⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用		
2.4	⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		
2.5	⑫ 持続可能な森林から産出された木材		
2.6	⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み		
3 3.1	⑬ 有害物質を含まない材料の使用		
3.2 3.2.1	⑬ 消火剤		
3.2.2 ⑬	⑬ 断熱材		
3.2.3 ⑬	⑬ 冷媒		
LR-3 1	⑭ 地球温暖化への配慮		
2 2.2	⑮ 温熱環境悪化の改善		
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)		得点	2.4
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) 	Q-2 2 2.1 2.1.1	⑯ 耐震性	
	2.4 2.1.2	⑯ 免震・制振性能	
2.4.1 ⑰	⑰ 空調・換気設備		
2.4.2 ⑰	⑰ 給排水・衛生設備		
2.4.3 ⑰	⑰ 電気設備		
2.4.4 ⑰	⑰ 機械・配管支持方法		
2.4.5 ⑰	⑰ 通信・情報設備		
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)		得点	1.6
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) 	Q-2 1 1.1 1.1.3	⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画	
	3 3.1 3.1.1	⑲ 階高のゆとり	
3.1.2 ⑳	⑳ 空間の形状・自由さ		
Q-3 3 3.1	㉑ 地域性への配慮、快適性の向上		
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (㉒地域性・アメニティへの配慮) 			
㉒高木を境界沿いに配置し、緑化率は21%である。			
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)		得点	2.8
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (㉓生物環境の保全と創出/㉔まちなみ・景観への配慮/㉕敷地内温熱環境の向上) 	Q-3 1	⑤ 生物環境の保全と創出	
	2	⑤ まちなみ・景観への配慮	
3 3.2	⑥ 敷地内温熱環境の向上		
LR-2 2 2.5	⑫ 持続可能な森林から産出された木材		
LR-3 2 2.2	⑮ 温熱環境悪化の改善		